令和５年度事業報告

特別養護老人ホーム　湯梨浜はごろも苑

１　基本方針

入居者の意思及び人格を尊重し、常に入居者の立場に立って良質の介護福祉サービスを提案し、個別ケアを実践する。

良質の介護・福祉サービスを提供することにより、入居者がその有する能力に応じ、安心で安全な自律した日常生活を営むことができるよう努める。

地域住民との交流を深め、地域に必要とされ、愛され信頼される施設づくりに努める。

２　利用者の状況（令和６年３月３１日現在）

（１）入退所の状況

定員		前年度末利用者数	令和５年度中の入退所状況					利用延人員	年間平均稼働率	年度末利用者数
			入所	退所	退所理由別					
					施設移管	契約解除（入院等）	死亡			
120人		114人	50人	47人	0人	18人	29人	40,360人	91.89%	117人
4年度	120人	114人	45人	45人	1人	21人	23人	40,097人	91.55%	114人

（２）利用者の介護度別人員

性別	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５	計
男　性	０人	０人	１５人	１４人	８人	３７人
女　性	１人	０人	２２人	３１人	２６人	８０人
計	１人	０人	３７人	４５人	３４人	１１７人

（平均介護度３．９５）

３　事業の実施状況

（１）個別ケアの充実

ア　毎月のユニット会議においてサービス相互評価や虐待の芽チェックシートを活用しケアや接遇等を話し合い、改善や評価を繰り返しながら心のこもった介護を意識し実施した。

イ　障がい者支援について理解を深め、統一した支援の在り方などのケース検討会を実施した。また、ユニット毎に対象者を決め認知症ケース検討会も開催しているが職員の困りごとではなく入居者目線となるように努めた。

ウ　入居者に合わせた生活スタイルを尊重し、一人ひとりの「自分らしさ」について考えつつ、個別ケアに取り組んだ。

エ　単調になりがちな苑生活が少しでも楽しみとなるよう、各ユニットやフロア毎に季節を感じて頂けるよう工夫を凝らしながら毎月行事等を企画し取り組んだ。入居者の方々も毎回楽しみにされている。

オ　入居者の新型コロナ感染症による重篤化を防ぐため手洗いや消毒等の標準予防策の徹底とユニットの定期的な清掃と消毒を実施し清潔な環境の保持に努めた。５月と９月に入居

者にコロナ発生したが拡大を防いだ。（今年度入居者３名、職員２１名が罹患した）

（２）重度化に対応するサービスの質の向上

ア　入院の長期化と退所とならないよう日々のケアの中で気づきを増やし、医務と連携し対応に努めたが、誤嚥性肺炎、尿路感染症等の入院者があり看護力や介護力の向上が今後も求められる。苑内や外部研修等の参加を実施しつつ、疾病に対する知識や対応方法、入居者の現状を毎月の運営委員会等で看護師から現状報告を受けながら確認した。

イ　目指す職員像を示し、それを基にステップアップ計画として職員一人ひとりが目標を設定し、3か月に一度上司等と面談し振り返りと目標達成度を確認した。

ウ　職員間で報告・連絡・相談しながらユニット運営を行うとともに、ユニットリーダーは上司との面談体験をユニット職員へ還元しながら目指す職員像を具体化できるよう、取り組みを継続している。

エ　身体拘束及び虐待防止研修を実施し人権意識を高めると共に、入居者の人権や尊厳を守る支援を継続して行った。今年度は、パート職員も虐待の芽チェックリストを実施し、不適切ケアの早期発見に努めた。身体拘束及び虐待事案は確認されなかった。

オ　毎月家庭連絡を行い近況報告をした。また、定期的にユニット便り等を写真とともに送り、ご家族との信頼関係に努めた。

（３）介護事故予防の推進

ア「眠りスキャン」などの ICT(情報通信技術)機器やリフト等の福祉用具の活用により身体的、心理的負担軽減を図るよう努めた。ＩＣＴ機器を導入することにより一層の目配り気配りをしながら安全・安心な生活が送れるよう取り組んだ。その結果、ベッドからの転落等の事故は減少したが骨折事故が３件発生した。また、マニュアルの遵守を怠ったことにより誤薬・誤配薬・薬の飲ませ忘れが１６件発生した。

イ　ヒヤリハット要因表を用いて各ユニットや利用者のリスクの傾向を知り、未然回避できるよう努めた。

（４）経営改善・基盤の確立

ア　入所申し込み者（待機者）の減少による入所者数の減少と、疾病による退所（死亡・長期入院者）で目標稼働率９４％を９１，８９％と目標を下回った。稼働率を確保するため入所申し込み者数の増加を目的に、病院連携室や居宅介護支援事業所、老健等にＰＲ活動を行った。また、退所や長期入院者を可能な限り少なくなるよう介護・医療等の連携で入所者の体調不良の早期発見・早期治療に努め入院者の減少に努めた。下半期は、若干稼働率が回復した。入所申し込みは昨年と同様に低調であった。

イ　電気代の高騰をはじめ、食料品や消耗品全般の値上がりへの対応に苦慮した。節電節約に努めるよう職員会議や日常で職員に伝えた。

ウ　入院の長期化が回避できるよう協力病院と情報の共有を行った。

エ　入所の申し込みが低調なことから病院連携室、居宅介護支援事業所、介護老人保健施設と連携し、待機者確保を行った。入所可能な方には積極的な受け入れとスムーズな入所受け入れに努めた。

（５）地域における公益的な取組の推進

ア　地域住民、ボランティアの受け入れや専門職員の派遣は、コロナ等感染症状況を見極めながら少しずつ再開した。

イ　高校生の職場見学や小学生の親子介護体験見学等、可能な限り受け入れ実施した。

ウ　コロナ禍以降、集合研修の増加に伴いはごろもホールの使用が増加している。（法人内３０件、外部５７件）湯梨浜町民生委員の研修開催時に特別養護老人ホームのことや湯梨浜はごろも苑の紹介などの研修を依頼されるなど地域に根差した施設となるよう貢献活動を行った。

エ　災害時の地域住民の避難場所として「はごろもホール」を提供、担当職員が福祉避難所開設研修などに参加して学んだ。また県社協主催 DWAT 研修に、湯梨浜はごろも苑の福祉避難所としての協定内容などの状況説明を行った。

４　実習、ボランティアの受入状況

（１）実習の受入実績

実習受入先	受入期間	実人員	延人員
鳥取県立総合看護専門学校	１０月	４人	８人
鳥取社会福祉専門学校	６月～９月	２人	３１人
鳥取県庁（新規採用職員体験研修）	１２月	２人	４人
計		８人	４３人

（２）ボランティアの受入実績

桔梗の会（生け花）、個人３名　４月・９月・１月

絵手紙クラブ　　個人１名　１２月～３月　　（延べ１３名）